

教科	地歴・公民	科目	歴史総合	単位数	2 単位	学年	1 年	コース	EAPL
使用教科書	歴史総合(実教出版)			使用副教材等	なし				

目標	社会的現象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成する。		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。会話文、資料、図版、写真鵜を活用して、読み解きまとめることができる。	・日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、背景や原因、結果や影響などに着目して、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	・歴史的な考察の方法やその特質について、主体的に理解を深めようとしている。資料等から導き出された根拠を踏まえた結論を出し、レポートにまとめ考察をより深め、学習したことを現代の社会問題の解決に生かそうとしている。
評価方法	定期考査、小テスト、ワークシート	定期考査、小テスト、ワークシート、ノート、レポート	レポート、発表、活動の様子など

担当者からのメッセージ	歴史総合は新設された科目です。歴史総合は世界史と日本史の近現代を中心的に学ぶ科目です。中学校社会科で学んだ学習をもとに、世界とその中の日本を広く相互的な視点でとらえ、現代的な諸課題の形成に関わる歴史の大きな変化の意味や意義、特色などに着目して、考察したり、歴史の課題を見つけ出し答えを探すことも行います。漫画などを使い歴史を理解したりして、知識を増やしてあげれば良いと思います。
-------------	---

学期	月	学習内容 学習のねらい	観点別評価規準
1	4	歴史の扉 第1篇 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動 ・17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおける生産と流通、江戸幕府の4つの口や周辺地域との貿易を基に、18世紀の日本からみた東アジアの政治・経済と社会を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の日本にどのような身分があり、どのような問題があったかを理解している。(知識) ・四つの口の交易品や相手国など違いをまとめ、場所別に説明することができる。(技能) ・田沼意次という個人の政策だけで説明することの問題点を追究して、どの時代においても政策が個人の発案だけで動いているのではないことを学び、政治の学習など社会生活に活かそうとしている。(主体的に取り組む態度)
1	5	第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 ・18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国の政治に影響などに着目して、主題を設定し、ヨーロッパ諸国とその他の地域の動向を比較したり、アジアとの関係を相互に関連付けたりするなどして、18世紀とその前後の世界全体の経済活動の特徴、ヨーロッパ各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係、江戸幕府が崩壊していく関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「イギリス産業革命やアメリカ独立戦争は現代の社会にどのような影響をもたらしたのだろうか」という問題を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。(主体的に取り組む態度) ・フランス革命の背景、内容、影響について、説明することができる。(知識) ・アメリカ合衆国と大西洋を挟む英仏などヨーロッパとの関係について、ナポレオン戦争との関連も含め、説明することができる。(知識) ・「奴隷解放宣言」や「リンカン」、「KKK」を使いながら、人種問題について今日の問題ともあわせてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。(思考・判断・表現) ・日本が欧米と結んだ条約の内容、貿易の品目、金貨の流出について説明することができる。(知識) ・幕府・長州藩・薩摩藩の動きと関連を説明することができる。(技能)
1	6・7	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成 ・19世紀後半のヨーロッパの動きと日本の明治維新の政策、日本と欧米諸国の外交関係を基に、19世紀の後半のヨーロッパと日本の経済と社会を理解している。 第4章 帝国主義の時代 ・19世紀から20世紀にかけてのヨーロッパ諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、アジア諸国とその他の地域の動向を比較し、相互に関連付けるなどして、19世紀から20世紀初頭のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係など多面的・多角的に、表現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ブルジョア」や「社会主義思想」について適切に説明することができる。(知識) ・「地租改正」を使い、新政府が税制改革をしなければならなかった事情をまとめ、説明することができる。(技能) ・四民平等と徴税と徴兵制度との関係を多面的・多角的に考察することができる。(思考・判断・表現) ・西南戦争が自由民権運動に与えた影響を説明することができる。(知識) ・ヨーロッパ諸国がアフリカのどこを支配したのか、セシル・ローズがまたいでいるのは何か、紛争が起きる理由などをまとめ説明することができる。(技能) ・アメリカがアフリカではなく太平洋に進出した理由を、アメリカの国内事情や西洋諸国の動きと比較して説明することができる。(知識) ・日本と韓国・北朝鮮との関係は良好とはいえない。その要因の一つが19世紀後半からはじまった日本の朝鮮侵略である。どのような解決法があるかを追究し、学習上の課題を解決しようとしている。 ・「フランス語でCHINEと書かれたパイを切り分けている人々はどこを象徴しているのだろうか」という問いに答えるとともに、右側の女性(フランスを象徴するマリアヌ)が左下の男性(ロシア皇帝ニコライ二世)の方に手をかけている意味(露仏協定など)について説明することができる。(技能) ・韓国併合にいたる過程を説明することができる。(技能) ・「足尾銅山鉱毒事件」をよんで産業の発展と公害との関係を考え、現代において公害さらには環境問題を追究し、学習上の課題を解決しようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度) ・日露戦争に勝利した日本に対する世界のまなざしはどうなったか。絵や資料を使い説明することができる。(技能)

1 9	<p>第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界多選と大衆社会</p> <p>・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第1次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴など多面的・多角的に考察し、表現している。第一次関大戦後の社気の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現しようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の第一次世界大戦の全容を理解している。(知識) ・第一次世界大戦が人々に与えた影響やその後の国際関係などの学習したことを、今日の戦争や紛争が与える影響を意識し、社会生活に活かそうとしている。 ・第一次世界大戦で特徴的な塹壕戦や新兵器について必要な情報をまとめ、それまでの戦争との違いを説明することができる。(技能) ・「世界はロシア革命をどのように受けとめていたのだろうか」という問いを資料を利用して多面的に考察している。(関心・意欲・態度) ・第一次世界大戦によってヨーロッパの地図がどのように変化したのかをまとめることができる。(技能) ・第一次世界大戦後に締結されたさまざまな条約の内容を理解している。(知識)
2 10	<p>第6章 経済危機と第2次世界大戦</p> <p>・経済危機の背景とその影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けるなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。第二次大戦後の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界の及ぼした影響などに着目し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に観点づけるなどして、第二次世界大戦後のの性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係など多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「1929年に世界恐慌がはじまり、1939年に第二次世界大戦がはじまった。あなたは、各国が実施したどのような経済政策が、世界大戦をまねいたと考えるか」という問いを参考に、経済状態の悪化が諸国の対立を生み戦争につながる可能性があることを、現在の経済状態や国際関係と比較して追究して、学習上の課題を解決しようとしている。(関心・意欲・態度) ・「計画経済」や資料を参考に、ソ連の計画経済の利点と欠点を説明することができる。(技能) ・ピカソがどのような思いでゲルニカを仕上げたかを考え、この絵の各部分が意味しているところを理解している。(知識) ・「恐慌からの脱出」にある高橋是清蔵相の政策についてまとめられ、経済の回復と軍事費との関係についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察している。(関心・意欲・態度) ・ドイツが独ソ不可侵条約を締結した意図を資料を使って説明することができる。(技能) ・「日米開戦の動きの整理」をみて、戦争に至る過程を確認しつつ、戦争を回避するとすればどの段階が大切かを、当時の日本の状況をふまえてつまとめることができる。(技能) ・史料「フランクルの『夜と霧』」をよんで、「右」と指示された人の運命に着目し、ナチスのユダヤ迫害について説明することができる。(知識) ・連合軍の日本管理で、沖縄だけがアメリカの支配となっている理由や今日への影響について理解している。(知識) ・戦後の改革は日本の出発点となり、現代の日本の礎となっている。今日において出発点の重要性とともに変えていけないこともあるだろう。そのような問題をグループワークなどで追究し、学習上の課題を解決しようとしている。 ・日本国憲法制定、教育基本法制定、農地改革や財閥解体をGHQが主導した理由を理解している。(知識) ・朝鮮戦争によって日本の経済は復興した(特需景気)。しかし写真⑥でわかるように武器の輸出など問題のあるものだった。日本が平和憲法を持ちながら、軍事協力をどのような形で行ってきたのかを現代においても同様の事例がないか追究し、学習上の課題を解決しようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)
2 12	<p>第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化</p> <p>・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トライの「あなたは、植民地にした国(宗主国)が、旧植民地の発展のために何をすべきだと考えるか」という問いに地図①や⑤を参考に地域別にまとめ、多面的・多角的に考察して、社会生活に活かそうとしている。(主体的に学習へ取り組む態度) ・史料「I have a dream」をみて、キング牧師の夢は何であるかを理解している。(知識) ・中国のプロレタリア文化革命が起きた背景や影響を理解している。(知識) ・日本の高度経済成長期は冷戦が激しかった時期でもある。日本が韓国や中国と国交を回復したこと、沖縄の返還が実現したことが現在に与えている影響について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度) ・日本のアジア諸国への賠償や無償供与の内容、賠償と無償供与の違いを理解している。(知識)

3	1	<p>第8章 多様化する世界</p> <p>・アジアの諸地域の経済発展の背景, 経済の自由化や技術革新の影響, 資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して, 主題を設定し, 日本とその他の国や地域の動向を比較したり, 相互に関連付けたりするなどして, 市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し, 表現している。冷戦の変容と終結の背景, 民主化や地域統合の背景と影響, 地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して, 主題を設定し, 日本とその他の国や地域の動向を比較したり, 相互に関連付けたりするなどして, 冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し, 表現している。</p>	<p>・原油価格の高騰が日本や世界の経済に与えた影響を説明することができる。さらに固定相場制から変動相場制に移った影響についてもまとめることができる。(技能)</p> <p>・トイレットペーパーがなくなるという噂が出まわり, 2020年の新型コロナ蔓延の中でも同様のことが起きた。どちらも根拠のない噂であったが, ひとつひとつはなぜだまされてしまったのかというかという問題を多面的・多角的に考察している。(関心・意欲・態度)</p> <p>・現在の中東の混乱と国際社会の関与, 米ロの関わり方という現代的な課題を追究して, 学習上の課題を解決しようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</p> <p>・冷戦終結後の民族紛争などの課題を理解している。(知識)</p> <p>・現代の日本は低成長の時代が続いている。その一方, BRICSなど経済成長をしている国もある。日本が経済発展をするのには何が必要かという学習上の課題を解決しようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</p>
3	2	<p>第9章 グローバル化と現代世界</p> <p>・事象の背景や原因, 結果や影響などに着目して, 日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり, 現代的な諸課題を展望したりするなどして, 主題について多面的・多角的に考察, 構想し, 表現している。</p>	<p>・イラク戦争において, アメリカは国際連合の枠組みを外れ単独行動主義をとった。このことも問題点を多面的・多角的に考察してレポートなどにまとめ, 適切に表現している。(関心・意欲・態度)</p> <p>・紛争や戦争をなくすという目的のために, 国家という枠組みでのみ考えることの限界について事例をあげて説明し, 平和のためにどのような論点で考えればよいかという課題に対し, グループワークを通じて学習上の課題を解決しようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</p> <p>・グローバル化の時代のなか, 国際的枠組みも変化が求められるようになってきた。どのような枠組みが人類が共生していくのにふさわしいと考えるかという課題を追究し, どのようにすればよいかという学習上の課題を解決しようとしている。(主体的に学習へ取り組む態度)</p>